

➤原子力平和利用における透明性の定義 (by SNL, 2000)

→ 安全性、セキュリティ、核物質の適切な管理について、**すべての利害関係者が独立して評価できるよう**、情報を提供する**自発的な**協カプロセス

1995～JAEA/LANL

目的: 原子力平和利用の世界的受容性
利害関係者: トラック I, トラック II, Public
範囲: 核不拡散、運転安全性、環境放射線等

①透明性概念研究

[研究の目的と意義]核不拡散専門家間の自発的な情報共有によって、地域内の透明性向上と信頼醸成を促進するとともに、IAEA保障措置の補完する。

1995～2002 JAEA/SNL

目的: 保障措置の効率化
利害関係者: トラック I, トラック II
範囲: 核不拡散

②常陽における遠隔監視技術の開発

2004～ JAEA/SNL

目的: 地域協カ+保障措置効率化
利害関係者: トラック II
範囲: 核不拡散

地域協カ・透明性のためのデータ通信技術の開発

④情報共有フレームワークの構築

2002～ JAEA/SNL

③アジアにおける原子力透明性向上信頼醸成プロジェクト(CSCAP協カ)

目的: 地域の信頼醸成、透明性向上
利害関係者: トラック II, Public
範囲: 環境放射線、運転安全性

2011～ JAEA/SNL

目的: 地域情報共有フレームワーク設計
利害関係者: トラック II
範囲: 核不拡散

安全性	保障措置	核セキュリティ		
安全規制情報	SG情報		設計基礎脅威	トラック I (政府、IAEA等の国連機関)
運転パラメータ RM	モニタリングポストデータ	計量管理データ 経路解析情報	施設設計情報 PP設計情報	トラック II (JAEA等の非政府組織)
気象情報			一般公開されている施設情報	Public (原子力産業、一般公衆)

情報の整理例

トラックI : 政府、IAEA等の国際機関
トラックII : JAEA等の非政府組織、専門家
Public : 原子力産業、一般公衆等

LANL: 米国ロスアラモス国立研究所
SNL: 米国サンディア国立研究所
CSCAP: アジア太平洋安全保障協カ会議